

ニッキン投信情報の連載『黄金時代到来！？なるほどインド講座』の第6弾が公開されました！

ニッキン投信情報（11月11日号）にて、弊社取締役 営業マーケティング本部長の面谷 祥友による連載『黄金時代到来！？なるほどインド講座』の第6弾が公開されました。

本連載は計12回（毎月1回）を予定しています。

第6回目となる本紙では“リスクを味方に付ける”積立でインド株投資 について寄稿させて頂きました。

ニッキン投信情報 2024年11月11日発行 第1339号 (1)

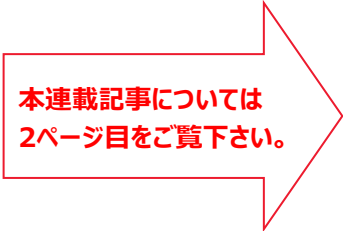
ニッキン投信情報

発行所 日本金融通信社 © 2024 〒102-8677 東京都千代田区九段南4-3-15 電話 03(3261)9971
週刊（毎週月曜日発行） 購読料（別冊込み）1ヶ月165,000円（税込）

掲載内容	掲載ページ
07 窓販ファンドの平均保有期間（2024年9月末） 全ファンド平均の保有期間は4.18年で前回調査から0.37年長期化	42-43
03 国家戦略半導体企業ウビダと地元の期待	50
05 投資窓販継続者に関する 前編農業協同組合 河曲文彦 窗販個人さん 質問想定し提案に迷む	51
70 ファンド別島 都市銀行 新形態で“気軽に”方面コンサル	52
52 全商債金の運用損益別顧客比率（2024年3月末） 87倍金平均の運用損益0%以上の顧客割合は92.7%	53
67 新編窓販ランキンク（2024年10月発表） トップは三井住友D S「ニュートン・パワー・イノベーション・ファンド（為替ヘッジなし）」で531億円	54
72 新編募集・設定ファンド T&D「米国株式・研究開発リバランスファンド「THE R&D」」など2本	55
73 販売会社情報 筑波銀、北陸銀、北国銀、池田泉州銀、名古屋銀、静岡ティエム証券、会津信金、横浜信金	56
75 運用会社情報 ゴールドマン、三菱UFJ、AM-One	57
76 黄金時代到来！？なるほどインド講座（第6回） “リスクを味方に付ける”積立でインド株投資 イーストスプリング・インベストメンツ 取締役 営業マーケティング本部長 面谷祥友	58
77 英語で考える金融（最終回） 日本の世界、英語の世界 Patrick E. Connolly / 大久保良夫	59
78 投資家売場革命！（第6回） 目指すのは当てにいかない投資 りそなアセットマネジメント 未来資産形成ラボ所長 南川 久	60
79 シン・運政知新のつみたて投資（第59回） 金利が下がっていくならば 日本つみたて投資協会 代表理事 太田 剛	61

「ニッキン投信情報 別冊 金融機関別 窓販ファンドの騰落率一覧」は、下記URLまたはQRコードからデータを取得できます。 <https://www.nikkinc.co.jp/toushin/touraku.html>

NIKKIN INVESTMENT TRUST NEWS



<当資料に関してご留意いただきたい事項>

○当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。○当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。○当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがあります。○当資料で使用するグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。○当資料では、個別企業に言及することがありますが、当該企業の株式について組入の保証や売買の推奨をするものではありません。○当社による事前の書面による同意無く、本資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。

英国ブルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社であるブルーデンシャル・アシユアランス社とは関係がありません。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第379号／加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

241107(07)

連載



前回のVol. 5 (10月14日号掲載) では「ポートフォリオ提案におけるインド株式組み入れの効果」と題して、分散投資について資産分散を中心にご紹介いたしました。続く本稿では、時間分散について、その代表的手法である積立投資をご紹介します。

インドでは積立投資が主流

インド現地の資産運用は、投資信託の積立投資が主流です。約10年前のインド出張時、「投資信託の大半がスポット購入ではなく、積立投資だ」と聞いて驚きました。理由をインドの同僚に尋ねると、「なぜ? って、投資信託は積立で買うものだろう? 」と、逆に不思議そうな顔をされました。昨年インド出張でも、現地ボンベイ証券取引所の幹部が、「インドでは個人投資家の積立投資を通じて、毎月20億米ドル以上の資金が株式市場に流入している。これはインド株式市場の下支えとなっていて非常に重要だ」と語っていたことも印象的でした。

ハイリスク・ハイリターン
の投資対象こそ積立投資

インド株式のように調整局面で大きく下落しても、比較的短期間で回復する傾向がある市場では、短期的な値動きに惑わされることなく、長期で投資を続けることがポイントです。語弊を恐れず言うなら、「いかに長くインド株式市場に居続けることができるか」ということとなります。もちろん、安値で投資を開始し高値で売り抜けることができれば理想的ですが、投資タイミングを計るのは難しいものです。一度利益確定して市

場から退場すると、価格が元の高値を超えて大きく上昇してしまい、再投資のタイミングを逃してしまう、ということもあります。そこで有効なのが、市場が上昇しようと下落しようと意に介さず投資を続ける、タイミングにとらわれない投資手法である積立投資です。過去の経験則からも、ハイリスク・ハイリターンの投資対象こそ積立によるリスク低減効果が発揮されやすい、と言えます。

インド株式の積立投資シミュレーション

指数を用いて、積立投資のシミュレーションをしてみました。インド株式に過去20年間積立投資をした場合の最終リターンは+348%、累積投資元本の約4.5倍となりました。同期間の米国株式には及びませんが、日本株式と比べてインド株式への積立投資が非常に高いリターンを生み出したことは明らかです。また、同期間中にインド株式に5年間積立投資をした場合の累積の平均リターンは+34%、投資成果がマイナスとなった回数は20/181 (約1割) でしたので、時間分散の効果もよく分かる結果となっています(図表参照)。

なお、このシミュレーションは、どの資産のリターンが高いかという比較ではなく、時間分散の重要性をご理解いただくためのものです。「資産分散、長期投資」に時間分散も加えて、リスクを味方につけた投資を実践していただければと思います。

(執筆: イーストスプリング・インベストメンツ

取締役 営業マーケティング本部長 面谷祥友)

図表 毎月1万円積立投資をした場合のリターン比較



出所: Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。期間: 2004年9月30日~2024年9月30日。
 ※米国株式: S&P500種指数、日本: 日経平均株価指数、インド株式: Nifty50指数、トータル・リターン(ネット)。ブルームバークの為替レートによる円換算を行っています。※積立については、毎月末に1万円を追加投資したと仮定して、各資産の月次リターンを基に試算しています。ただし、投資期間の最終月末には追加投資を行わないものとして試算しています。※20年間の投資成果については、1万円未満切り捨てで表示しています。※5年間の積立投資した場合については、期間中に5年間の積立が可能181回のケースについて試算しています。※信託報酬や税金等あらゆるコストは控除しておらず、また指数に直接投資することはできません。上記は、一定の前提のもとで計算したシミュレーションであり、実際のパフォーマンスとは異なります。※上記は参考データをご提供する目的で作成したものです。上記は過去のデータをもとにした試算であり、将来の運用成果を保障するものではありません。
 本稿は執筆時点での情報に基づく筆者の個人的な見解であり、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の公式見解ではありません。